NPO 法人バランス 21 ニュースレターNo.17 2022.12

堂谷津の里から

堂谷津の里では、11 月 3 日に収穫祭を無事に終えることができました。今年は、「親子で米づくりと自然体験」の参加家族に千葉市科学館主催「ちばフィールド探究クラブ」の参加者も加わり、100 名余で自然の恵みに感謝し、来年の豊作を願いました。

収穫祭後、田んぼでは冬期湛水の準備（田の整地、畦の草刈りや補修、土水路や堰の補修など）を進め、堂谷津の池から土水路や U 字溝を通じて田んぼへの導水を始めています。（冬期湛水についてはニュースレターNo.5 参照）

また、山林では散策路の整備が進み、初冬の山林を巡ると、落ち葉を踏む感触、さらには思いがけない景色との出会いを楽しむことができます。一方で、カシノナガキクイムシが媒介するナラ菌によるナラ枯れの拡大が懸念され、被害木の伐倒が進められています。その状況について、次ページでお知らせします。

【活動広場での収穫祭】

収穫祭では、参加者で分担して、今年収穫したお米を釜で炊いたり、芋煮、焼き芋、焼き餅作りを行いました。

【活動広場での正月飾り作り】

12 月 17 日には、今年の稲藁を用いた「正月飾り作り」を千葉大・京葉銀行エコプロジェクトのメンバーも加わり、賑やかに行いました。ハウスにも飾りつけて、新しい年を迎えます。

報告

森づくり報告（ナラ枯れ被害報告第２弾　再生）

2020 年にカシナガの被害を初発見して 3 年目になる。2020 年 19 本、2021 年 56 本、2022 年 47 本の被害木がそれぞれ確認され累計 122 本になった。散策路から観察できる範囲内のコナラクヌギの全本数約 240 本なので被害率約 50%、このうち完全に枯れたものは 30 本で散策路に掛かる危険のものから 21 本を伐採した。

伐倒作業は安全第 1 とし、ロープを掛けて牽引し、掛かり木にならないように（多少かかっても強く牽引することにより外し）慎重に行っている。ボランティアでは困難なものは市が森林環境譲与税を財源に外注した業者に処理してもらっている。

伐採木はそのまま放置するとさらにカシナガを呼び集めるので、シートをかぶせて燻蒸処理や搬出して焼却処分するのがマニュアルにはあるが、乾燥させると中の幼虫が死ぬという論文があり、堂谷津では薪ストーブ利用する会員や薪で起業した協力者がいて、伐倒作業とスケジュール調整しながら玉切してすべて搬出し薪にして乾燥させている。伐採後の跡地にできたギャップ（明るくなった林冠の隙間）にはコナラ、クヌギの苗を植樹し薪炭林の再生を図っている。

ラップ巻きによる防御
A4 クリアファイルによる
簡易トラップ

一時ははげ山になってしまうのではないかと心配したが、被害に遭っても生残する率が結構高く、ナラ枯れ被害木の伐採がバイオマスの利用と老齢林の再生につながり、一石三鳥くらいの好循環が生まれていて、今はむしろ前向きにとらえている。

1990 年ころから全国的にナラ枯れが広がったのだがその原因は薪炭林としてコナラ類が増加した里山において、その後の燃料革命で放棄されカシナガの好む大径木が密に生える場所が大量に生じたためと言われている。

簡易トラップやラップを樹幹に巻いて防御する方法も試みたが防ぎきれるものではない。上記のように少しずつ更新を図っているのだが、長期的視点に立てば、15 年から 20 年で伐採収穫する薪炭林（低林管理）を目標とするゾーンと、多様な樹種による豊かな生態系の森にするゾーンを労力の範囲内で配置することを考えている。（第 1 弾報告　ニュースレター No.4 参照）（Y.N.）

＜情報コーナー＞

今年の活動は、12 月 20 日（火）で終了しました。
来年は、1 月 10 日（火）から始めます。
来年も、多くの皆さんと一緒に活動することを楽しみにしています。。

NPO 法人バランス 21
E-mail :yatosatoyama@gmail.com
URL :https://balance21.jimdo.com/
連絡先：千葉市若葉区谷当町 70
TEL＆FAX:043-239-0645（現地）